

編 集 後 記

新年明けましておめでとうございます。「臨床神経学」の読者の皆様には、新たな希望を胸に新春を迎えられたことと存じます。日本神経学会にとっては、昨年初頭に専門医制度における神経内科専門医の基本領域化を目指すことを社員総会にて機関決定したことは、大きな節目と言えるでしょう。困難な道ではありますが、会員の総力を挙げて実現を目指したいものです。

さて、本誌がオープンアクセス可能な完全電子ジャーナルとしてスタートして既に4年が経過し、アクセス数は年々増加しています。1年目の2014年11月～2015年10月は1,435,592件でしたが、3年目の2016年11月～2017年10月は3,106,671件、4年目の2017年11月～2018年10月は4,869,923件という具合です。また、これまで電子化されていなかった創刊号から47巻までの電子化も完了し、学会HPの臨床神経学電子ジャーナルページより会員限定でご覧いただけるようになりました。前記アクセスでも特に学会HP経由のものが著増しており、過去論文の電子化完了も貢献しているものと推測されます。

2018年度の新規投稿数は11月末の時点で83編、論文

採択率は79%、採択判定までの平均所要日数は69日と前年の水準を維持しています。新規投稿数が減っていないのは喜ばしいことですが、一方最近レベルの高い原著論文・症例報告は英文にという志向があることは当然で、また神経学会としては英文の学会誌Neurology and Clinical Neuroscienceの発展を目指すことも喫緊の課題です。そのような状況で「臨床神経学」の役割も時代に応じて変わる必要があると考えています。ひとつはレベルの高い総説を掲載することによる教育的な役割で、編集委員会ではこの考えの元に、学術大会の講演などから選んで、各領域のexpertに積極的に総説を依頼することを始めました。昨年末より毎号1～2編の依頼総説が掲載されるようになってきました。会員の皆様にもご依頼が行くことがあるかと思えます。その節は、「臨床神経学」に載る総説は神経学領域において日本最高の標準的見解となるのだという意識を持っていただいて、是非とも力を入れてご執筆いただけましたら嬉しく存じます。どうぞよろしく願いいたします。

(園生 雅弘)

〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 園生 雅弘 編集副委員長 高尾 昌樹
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡
 鈴木 匡子 坪井 義夫 西野 一三 星野 晴彦
 編集委員(幹事兼任) 小野寺 理 新野 正明 三澤 園子

「臨床神経学」	第59巻 第1号	2019年1月1日発行	
編 集 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		一般社団法人日本神経学会
発 行 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		戸 田 達 史
印 刷 所	〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入		中西印刷株式会社

発 行 所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日 本 神 経 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>